

2. 交流内容に関する事項

(1) 交流内容について(できるだけ具体的にご記入ください)

① 交流名 (事業名)	富山県と中国・遼寧省との友好交流
② 交流の内容	<p>富山県と中国・遼寧省は1984年(昭和59年)に友好県省を締結して以来35年間にわたり、各種友好訪問団の相互派遣や、職員・留学生の相互派遣、工業、農業、水産業、医学、港湾、環境等の技術研修員の受入、奨学金の支給、環境、スポーツ、文化、教育、観光など幅広い分野にわたる活発な交流を行っている。</p> <p>2018年(平成30年)には、富山県知事を団長とする友好代表団を遼寧省に派遣し、経済・貿易や観光の分野の交流促進、人的及び文化交流の推進を内容とする「交流と協力の深化に関する覚書」を締結したほか、2019年(令和元年)12月には、友好県省締結35周年を記念し、遼寧省から陳緑平(ちん りょくへい)副省長を団長とする訪問団14名を富山県に迎えて、記念式典及び祝賀会を開催した。</p> <p>若い世代の交流にも取り組んでおり、2019年は「日中青少年交流推進年」にも当たることから、遼寧省から富山県へ45名、富山県から遼寧省へ36名の大学生などからなる交流団を相互に派遣し、交流する事業を行った。</p> <p>また、友好県省締結を機に、県省双方の市、医療機関、教育機関、民間団体・企業等の間で友好関係が結ばれるなど、全県省が一体となった交流が積極的に行われている。</p> <p>さらに、両県省の交流の積み重ねを背景として、2004年(平成16年)、中国に「富山ファン倶楽部」が設立された。富山県に滞在経験があり富山をこよなく愛する中国人のネットワークを構築し、各種交流活動を通じて、富山県と中国との相互発展を図ることを目的としており、遼寧省在住者を中心に会員数は約400名を数える。同会が友好提携35周年を記念して富山県に「里帰り」することとなり、旧交を温めるとともに、相互理解と友好関係の促進が図られた。</p>
③ 背景・経緯	<p>富山県は日中国交正常化に尽力した故松村謙三氏の故郷であり、早くから中国との交流に力を入れてきている。</p> <p>1979年(昭和54年)5月、廖承志(りょうしょうし)中日友好協会長(故人)を団長とする中国の各界代表者が、中日友好の船「明華号」で来県した際、一行の中に遼寧省代表が含まれており、県内各地で交流・交歓を行った。同年7月には、富山県から第9回「青年の船」が中国を訪れ、遼寧省を中心に各地で友好親善を深めた。</p> <p>両県省は、その後密接な交流を続け、1982年(昭和57年)10月、富山県知事を団長とする第12回「青年の船」が再び遼寧省を訪れた際、友好県省の締結が提案され、1984年(昭和59年)5月9日に全樹仁(ぜんじゅじん)省長(故人)以下8名の代表団を富山県に迎えて友好県省が締結された。</p>

<p>④ 交流の成果</p>	<p>2004年(平成16年)に、大連市に職員4名からなる富山県大連事務所を開設し、県民、企業、大学等が実施する経済、学術・文化・スポーツなどの各種交流活動への支援に大きな役割を果たしている。</p> <p>また、1988年(昭和63年)から現在まで29名の職員を、富山県から遼寧省に派遣し、遼寧省外事弁公室での行政研修や省内大学での語学研修を行っている。一方、遼寧省からは、1990年(平成2年)から現在まで29名を県費留学生として富山県に受け入れ、県庁での行政研修や県内大学での専門分野の学習を行っているほか、工業、農業、水産業、医学、港湾、環境等の分野において、技術研修員等を多数受け入れている。その後、各職員、留学生、研修員等は、派遣経験を踏まえ各分野で活躍している。</p> <p>さらに、2019年(平成31年)からは、前年に遼寧省と締結した覚書に基づき、遼寧省との経済・貿易の情報交流を強化することを目的として、富山県国際課に経済・貿易連絡員を配置している。</p> <p>一方、1994年(平成6年)、友好提携10周年を記念し「富山県・遼寧省友好記念奨学金制度」を創設し、省立大学の日本語学科に在籍する優秀な学生に対し、奨学金の支給を行っている。(現在の名称は「松村謙三記念富山県・遼寧省友好奨学金」。)2018年度末までの受給者数は、大学生858名、高校生968名の計1,826名に上り、両県省の交流の懸け橋になっている。</p> <p>経済分野においては、富山県から遼寧省へ38社46事業所が進出しているほか、富山県で2年に一度開催する「富山県ものづくり総合見本市」(地方都市では最大規模の国際見本市)への中国からの出展についても遼寧省が最も多く、両県省の結びつきは強固なものとなっている。</p> <p>2018年(平成30年)5月の「日中知事省長フォーラム」において富山県知事が李克強(りこくきょう)國務院総理と面会した際、「遼寧省との交流関係を大切にしてほしい」との言葉をいただいた。</p> <p>2019年(平成31年)4月に富山県知事が訪中した際、中国人民対外友好協会等からの要請に基づき、「一帯一路国際協力サミットフォーラム地方協力分科会」に日本の地方の代表として出席し、これまでの遼寧省をはじめ中国との交流等について意見発表している。</p>
<p>⑤ 今後の展望</p>	<p>富山県と遼寧省は、これまでの35年の長きにわたる交流を基礎として、これまで以上の幅広い分野で活発な交流をしていくこととしている。</p> <p>例えば、富山県及び遼寧省は、韓国江原道、ロシア沿海地方と共に「環日本海インターハイ親善交流大会」を1993年(平成5年)より開催しているが、2020年(令和2年)の同大会は遼寧省で開催予定である。先の日中ハイレベル人的・文化交流対話(2019年11月)において、2020年を「日中文化・スポーツ交流推進年」とすることで一致したことから、この大会を含めた文化・スポーツ面でも、両県省の間で引き続き活発な交流を行うことになる。</p> <p>また、友好提携35周年の節目に当たる2019年(令和元年)、富山県にも、遼寧省とゆかりのある民間人を中心とした人的ネットワークとして「遼寧ファン倶楽部」が設立されることとなり、今後、会員の募集が行われる予定である。</p>
<p>⑥ その他</p>	

(2) アピールポイント

下記①～⑥の【審査のポイント】に基づき審査いたします。各視点に沿って、事業の特徴等をご記入ください。

その他、強調すべき点については、「⑦その他」にご記入ください。

項目	根拠・理由
① 先進性	両県省の交流の積み重ねは、日中間の自治体交流のモデルとして高く評価され、友好県省締結30周年に当たる2014年(平成26年)に、中国対外友好協会からモデル友好都市として表彰されるなど、他の模範となりうるものである。
② 独自性	中国における「富山ファン倶楽部」(会員数約400名)や、富山における「遼寧ファン倶楽部」(2019年(令和元年)12月に世話人会を設立)に代表される、民間人のネットワークが構築されている。 2019年9月には、友好県省35周年を記念した「富山ファン倶楽部」の里帰りツアーが企画され、60名が富山一大連便を利用して富山県を訪問するなど、特色ある民間交流が行われている。
③ 継続性	1984年(昭和59年)に友好県省を締結してから、節目の年には知事・省長等を団長とする訪問団を相互に派遣しているほか、議員団の訪問、職員派遣等の人的交流も途切れることなく続けている。
④ 活発性	「松村謙三記念富山県・遼寧省友好奨学金」の受給者が延べ1,826名に上るのをはじめ、職員や留学生の相互派遣、「日中青少年交流推進年」に合わせた訪問団の相互交流などにより、多数の人が両県省の交流に携わっている。
⑤ 協働性・連携性	日本海側屈指の「ものづくり県」である強みを生かし、2016年(平成28年)に「日中経済協力会議」を富山県で開催したほか、遼寧省をはじめ中国国内から多数の企業が出展する「富山県ものづくり総合見本市」を2年に一度開催し、県内企業の販路開拓にもつなげるなど、官民が連携して地域の特色を生かした交流の拡大を図り、富山県・遼寧省双方の発展に寄与している。 また、教育機関と連携し若い世代の交流にも取り組んでおり、2019年(令和元年)には、大学生などからなる交流団を相互に派遣している。
⑥ 効果 (相手方にも与えた影響や効果を含む)	1998年(平成10年)に運航開始した富山一大連便は、20周年に当たる2018年(平成30年)には週2便から3便に増便され、ビジネスばかりでなく両地域住民の交流の懸け橋として定着している。また、伏木富山港(富山県)と大連港(遼寧省)は1985年(昭和60年)に友好提携しており、両港をつなぐ定期コンテナ貨物船が週2便寄港している。 このような交通基盤の整備と人的交流等が相まって、両県省の結び付きは強固になっており、2018年(平成30年)には、経済・貿易や観光の分野の交流促進、人的及び文化交流の推進を内容とする「交流と協力の深化に関する覚書」を締結し、友好・協力関係の一層の発展を目指すこととなった。
⑦ その他 (500文字以内)	富山県と遼寧省との交流は日中両国で高い評価を受けており、2009年(平成21年)に富山県知事が李克強(りこくきょう) 國務院副総理(当時)を表敬訪問した際、「両県省の交流は日中自治体交流の模範である」との言葉を受けた。 また、2019年(平成31年)4月に富山県知事が訪中した際、「一帯一路国際協力サミットフォーラム地方協力分科会」に日本の地方の代表として出席し、これまでの遼寧省をはじめ中国との交流等について意見発表したほか、それに先立ち開かれた、習近平(しゅう きんぺい) 国家主席と二階俊博自民党幹事長との会談に同席し、習主席と挨拶する機会を得た。

【審査のポイント】

①先進性	・他団体に広がる先例や模範となりうるものとなっているか。
②独自性	・創意工夫に富み、他団体では見られないような独自の発想や着眼点があるか。
③継続性	・活動の継続、効果や実績の定着が期待できるか。 ・(実績は少なくとも)今後の活動の継続性・発展性が大いに期待できるか。
④活発性	・活動内容が質量ともに充実しているか。 ・多様かつ多数の者が活動に参加又は関与しているか。
⑤協働性・連携性	・行政と住民等、多様な主体間での協働、連携がなされているか。 ・協働、連携により、事業の効率的な実施や成果の向上が図られているか。
⑥効果	・この取組により、地域の国際化、地域経済の活性化、地域の知名度やイメージの向上等につながっているか。